

中国人に影響を与えた日本映画と言えば、まず高倉健主演の映画『君よ憤怒の河を渡れ』（1976年制作）が挙げられるでしょう。中国語のタイトルは《追捕》。文化大革命以降初めて上映された外国映画であり、ストーリー、登場人物ともに新鮮で、当時の中国人はこの映画に熱狂しました。無口で信念を曲げない主人公を演じたのがご存じ高倉健で、多くの中国人女性の心を虜にしました。2014年に高倉健が亡くなったときは大きなニュースになり、たくさんの人がその死を悼みました。

さて、1980年代になると今度は山口百恵の《血疑（赤い疑惑）》や《阿信（おしん）》などのテレビドラマが放送され人気を呼びました。1990年代にはトレンドドラマの放送が始まり、《東京爱情故事（東京ラブストーリー）》、《悠长假期（ロングバケーション）》が、やはり大ヒットしました。

では、最近はどうでしょう。以前中国人の友人と話していて、彼女の口から日本語で「倍返しだ!!」の一言が飛び出し、びっくりしたことがあります。当時、日本でも放送が終了したばかりだったし、普通に考えて中国ではまだ見られるはずがなかったからです。最近では、『地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子』で石原さとみのスカーフがおしゃれだとか、『逃げるは恥だが役に立つ』の星野源が回を追うごとに素敵に見えてきた、とか、さまざまな感想を聞きます。日本でそれほど人気の出なかったドラマのこともほんとうによく知っています。そうです。彼らは日本のドラマをテレビではなくインターネットで見ていたのです。視聴者は、1回ずつでも、まとめてでもダウンロードすればすぐ見られます。やはり、まとめていっぺんに見て、どっぷりはまるケースが多いようです。

それで、ドラマを見るとき言葉の問題はどうしているのかというと、なんと今は外国のテレビドラマを翻訳する専門のグループがあるんです。名付けて「字幕班」。中には営利目的ではなく、あくまでも自分の趣味でやっているボランティアのグループもあります。中国の人たちは、吹き替えではなく字幕が付いたものをほとんどリアルタイムで見ていたのです。

異文化理解の方法はさまざまありますが、映画やドラマはフィクションではあっても、専門家の解説や説明、編集などを通さず登場人物を通してその国の様子を直接見られるところがいいですね。インターネットを介して、外国のドラマが手軽に見られるのは相互理解の大きな助けになると思います。

今回のお話に出てくるウルトラマンシリーズは1990年代に放送され、当時は中国語の吹き替えでした。“奥特曼 Àotèmàn（ウルトラマン）”はどこでもヒーロー、正義が悪を倒す痛快さに国境はなく、中国の子どもたちにも大人気でした。でも、ここでは女性がウルトラマンと比べられています。3月8日、国際婦人デーにまつわるお話はだいたいこんな感じなんですよね！

女人找茬¹的时候智商仅次于爱因斯坦²，
女人发火的时候战斗力仅次于奥特曼，
女人发疯的时候危险性仅次于藏獒³！
先生们，放弃抵抗吧，你惹不起⁴的！
宠⁵她，才是唯一的出路！
祝姐妹们 3.8⁶ 快乐

- 1 找茬 zhǎochá：ぐずる。言いがかりをつける
- 2 爱因斯坦 Àiyīnsītǎn：アインシュタイン
- 3 藏獒 zàng'áo：チベットマスティフ。中国チベット高原を原産地とする超大型犬
- 4 惹不起 rěbuqǐ：逆らえない
- 5 宠 chǒng：可愛がる
- 6 3.8 sānbā：3月8日国際婦人デー（“三八妇女节”の略）
1904年3月8日アメリカで女性労働者が婦人参政権を求めて起こしたデモをきっかけに、1910年コペンハーゲンで行われた国際社会主義会議で「女性の政治的自由と平等のために戦う」日として制定された。日本ではあまり馴染みがないが、中国など社会主義圏ではイベント等が行われる。



女の人が言いがかりをつけるとき、そのIQはアインシュタインに迫る。
女の人がかんしゃくを起こすとき、その戦闘力はウルトラマンに迫る。
女の人がヒステリックになったら、その危険性はチベットマスティフに迫る。
男性のみなさん！ 抵抗するのはあきらめましょう。かなわないんだから。
女の人を大事にすることだけが、唯一の生きる道。
女性のみなさん、国際婦人デーおめでとう！